流域治水の思い胸に

岩崎川床上浸水対策
事業の完了を祝う
築堤などで流下能力向上
矢巾町で竣工式

県が2014年度から進めてきた「岩崎川床上浸水対策特別緊急事業」の河川改修の竣工式が20日、矢巾町北矢幅地内に整備された岩崎川河川防災ステーションで開かれた。総事業費は61億1400万円。関係者や地域住民ら約30人が集い、事業の完了を祝った。

事業は13年8月9日に同町で発生し、床上浸水96戸、床下浸水286戸の甚大な被害をもたらした豪雨災害を踏まえ、実施されたもの。同町西徳田地内から上矢次地内までの2640㍍区間で、岩崎川の川幅の拡幅や築堤などを行い、流下能力を工事前の毎秒20立方㍍から毎秒150立方㍍に向上させた。併せて、六助橋、岩崎川橋、上海老沼橋、下海老沼橋、JR橋も架け替えた。

河川防災ステーションは、河川改修で掘削した土砂を使い、上海老沼橋下流と下海老沼橋下流の2カ所に整備。平時は公園、災害時は防災拠点として活用される。

河川防災ステーションの名称は町内中学生が考案。上海老沼橋下流側が「祝咲喜（いわさき）公園」、下海老沼橋下流側が「さつき公園」に決定した。さつき公園は今年中、祝咲喜公園は22年度中に整備を完了させる。

竣工式で、盛岡広域振興局の泉裕之局長は「防災ステーションが地域の防災拠点としてだけではなく、平時は河川公園として町民の皆さんの憩いの場として広く親しまれ、活用されることを期待している」とあいさつ。

「近年の激甚化、頻発化する豪雨災害に対しても、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変換し、社会全体で洪水に備える必要がある。流域のあらゆる関係者が協働して治水に取り組む、流域治水を進めていく必要がある」と訴えた。

高橋昌造町長は「町は今年、豪雨災害のあった8月9日を独自に防災の日と定めた。同じ年に、事業が竣工したことをうれしく思う」と述べた。

地元住民を代表し、矢巾2区コミュニティ会の佐々木四志美会長（73）が「（13年8月9日の）豪雨災害では、悲惨な光景が広がったことを、昨日のことのように思い出される。大規模事業が完了し、地権者、県、関係機関などに感謝申し上げる」と語った。

テープカットも行われた「岩崎川床上浸水対策特別緊急事業」の河川改修の竣工式

「岩崎川床上浸水対策特別緊急事業」で整備された岩崎川と、下海老沼橋